地域の高等学校教育のあり方に係る意見を聴く会　意見概要
＜彦根市教育委員会＞

■ 日　　時　平成２４年（2012 年）５月 29 日（火） 10:30～12:00
■ 場　　所　彦根市民会館会議室
■ 参 加 者　彦根市教育委員会　９名
■ 主な意見　※ 同趣旨のご意見については集約してとりまとめました。

○　統合が、なぜ彦根と長浜なのか。生徒数の推移は、滋賀県全体の推移で彦根、長浜は微量だが増えていく。県の数字は否定されてしまう数字である。
○　滋賀県の南の学校は、反対運動で統合が消えた。北に統合対象が偏っている。北に統合を計画した根拠、選択の理由を明確にすべき。特色のない高校を残さない方針はどこから出てきており、どのような思想的判断で、そうされているかを明示すべき。
○　彦根市では0歳児が高校に入学する15年後まで子どもの数はむしろ増加する。そのような中、120 人の定員を削減する案であった。これでは市内の県立高校に進学できなくなる。私立高校への進学を選択するとなると保護者への影響が大きくなる。再編の全体の姿が見えない。対策をしっかりと示されるべき。
○　地元の高校に行けるはずが、電車やバスで遠い学校へ通うことになり、時間的、体力的な生徒への負担、保護者には定期代の負担を押し付けている。
○　湖東、湖北では、ここ10年子どもは減らないので、クラス数、行ける学校のキャパは確保していただきたい。その中でどういう学校がいるのか、教育行政のビジョンを示していただきたい。
○　先に、こうあるべきだという高校のビジョンが示されるべきなのに、再編にスポットが当たってしまった。
○　グローバル社会で大学改革が進んでおり、そこに高校側がどのようについて行こうとしているか、どのような人材を大学に供給して行こうとしているかという発想が滋賀県では見えてこないのが残念。滋賀県では、公立学校が優秀な人材を輩出し、頑張ってきた伝統があるが、大学や社会の変化に対応できる高校がどうあるべきかのビジョンが示されていない。
○　湖北には社会の経済情勢に合った先進的な高校がない。彦根東高校もあるが、産業界の要請、国際社会に生きる人材を養成し、大学に供給する高校も必要。再編より、県として滋賀県の教育をどうするかのビジョンを示す必要がある。
○　高校教育に関して、ここ10年いろんな取り組みがされてきた。全県一区で選択肢が広がり、更に特色選抜が導入された。子どもサイドから見ると、果たして本当に特色ある選抜かが見えてこない。結局輪切りになる特色選抜である。今回の再編の特色・魅力ある学校づくりでも、自分の良さを伸ばすとか、将来力を身につけるなどの特色が見えてこない。特に普通科高校が、「うちは何で勝負し、どんなことで魅力を出すのか」が保護者にも子どもにも地域にも見えてくることが大前提。その上で再編がついてくる。
○　現実として、学力的に上位、少し届かない子など様々な子がいるのが世の中。保護者のニーズ、子どもの学びのニーズに合った学校編成を考慮して欲しい。
○　魅力のある学校づくりを目指す再編とのことだが、施設だけでなく、教師の質を高めるこ

とも重要。

○　財政面なら教育で削減するより、他のことで削減できるはず。教育は国の未来を支える人をしっかりと作っていく重要なもの。小規模であれば、あるだけの特色ある学校づくりはできる。

○　定時制は、長浜から能登川への通学時間、経済的な負担が増加することになる。地元の近くに通えることが一番大事。集約すれば良いのではなく、教師は家庭との行き来もあり、能登川から北まで家庭訪問することになると、距離的に遠いことがデメリットになる。子どもを大切に思う教育なのか。子どもたちにとって何が一番大事かを考えるべき。行政や先生のためでなく、子どもたちが大切にされるような教育をやっていくべき。財政に関することで定時制が切られるのは恥ずかしい限り。

○　定時制の現状の詳細、就労学生の人数などの根拠を示されていない。

○　能登川に集約するのは理にあわない。

○　定時制をなくして能登川へ集約すれば、遠いところへ行くことになる。基本的に定時制は就労学生で、昼働いて、夜学校に行く。事業所の多いところ、長浜・彦根などに置くのが立地的にふさわしいのではないか。

○　定時制は、就労学生ばかりかといえば、そうではない。中学校の時、クラスになじめない、学校に行けないため、個別に指導を受ける子どもたちである。でもやっぱり高校に行きたいと考え、一番近い彦根東高校の定時制へ行っている。その子たちが電車で行くとなると、モチベーションが保てるのか分からない。近くにある学校に入れたいとの思いがある。教育弱者の子どもたちもいることを念頭に入れて欲しい。魅力のある高校とするからには、子どもたち、保護者、地域の思いを取り入れていただき計画を進めていただきたい。

○　定時制高校の統合については、家庭環境が厳しく定時制で学ぶ生徒がおり、地域や中学校と連携し、きめ細かに対応していただいており、この良さを統合によって損なわないように、生徒の幅広いニーズに応じた再編にして欲しい。

○　定時制については、不登校の生徒は電車に乗って行けるか。

○　定時制のあり方を議論していただき、再度提案いただきたい。

○　彦根西高校は、中学校で学力の追いつかなかった生徒たちを受け入れ、なんとか引き上げようとする熱意ある学校。その学校をなくす意味を考えていただきたい。

○　小規模校でも工夫次第で魅力ある人間形成ができる。よりきめ細かな指導を県でも生かし、高校同士の交流も考えれば良い。

○　それぞれの学校には伝統・文化もあるので、伝統を根こそぎかっさらうよりは、残して育てるほうが良いとの判断もある。

○　予算削減は正式に表明されているような、いないような状況である。行政は財源との兼ね合いで行うもので、はっきりと、「予算は削減したいが、教育も大事だと、統合をしたい」と明示すべき。はっきりしないと滋賀県民が納得できない。新しい案を出す時は、案を策定した根拠を数字の詳細まで、どう把握してどう判断したか開示して説明しないと突破できないと思う。

○　高校の実態は理解できていないが、統合の目的は何か。企業であれば統合・改革は無駄の排除。合理性から見た無駄を省くのが企業の論理であるが、教育は無駄の排除だけでいいのか。企業は生き残るためにトップダウンでやるが、教育は一生に関わる問題でも

あり、目的は無駄の排除だけではいけない。

○　財政は大事で、財政がしっかりしないと何もできない。今の教育における財政実態はどうであって、無駄がないのかを、言いにくいとせずに、もっと出せば良い。今の実態から見たら、永続的な滋賀県の教育行政はどんなバランスで、どんな方向か、再編に必要なことの優先順位を決めていくべき。言いにくいことも言うべき。全てをオープンにして、もっと実態を“見える化”すれば、いろんな人が意見を言いやすい。

○　県の財政状況も理解している。決して今回の問題が財政だけとは思っていないが、財政的な観点では「選択と集中」だと思うが、集中と言う意味では、どのような学校への投資、投資効果を考えて計画しているのか、聞かせて欲しい。

○　南は大阪、京都に行きやすいが、北の方からは交通が不便なので、北に統合を集中せず、南で統合すればよいと思う。南では統合できないと明確に示してもらわないと納得できない。交通の便で私学へ行きにくいことを考え、合理的な統合計画を考えて欲しい。

○　南の方は県内の公立以外に京都などの私立高校を選択肢の中で選べるが、北は通うのが困難。北に特色ある高校をつくるのは滋賀県の中では意味がある。

○　京都の私立へ行ける学力があり、費用の負担ができる家庭の子どもたちはいいが、私立は授業料の問題があり受け皿にならない。学力的に、経済的に選べない子どもは増えてきている。教育弱者には、経済的な弱者の意味も含む。教育は、できる子を伸ばすこともあるが、できない子を伸ばすのも大切な役割だと思う。

○　県の財政も厳しいが、保護者も厳しい。少人数の良さは認めるが、それよりも、私立があるなら、そこに誰もが行ける環境を作ることも視野に入れれば、学校がなくなる地域の子どもたちの学校選択も広がるのではないか。

○　地域の意見を聴くだけ聴いて、結局変わらないなら話し合いは必要ない。